

Lion

IWATE



2015.April

「盛岡南ライオンズクラブ40周年記念式典」 並びに全国南LC友好会被災地支援事業について

盛岡南ライオンズクラブ幹事 L.菊田 隆

昭和50年3月21日、盛岡観武ライオンズクラブのスポンサーにより県内35番目のクラブとして結成された当クラブは、本年結成40周年を迎え、去る3月14日(土)、盛岡グランドホテルにおいて300名近くの皆様ご参加のもと盛大に記念式典、祝宴を開催する事ができました。

大会総務委員長(第1副会長)L.石塚和宏の開会の言葉、会長L.森岩彰の開会ゴング、この5年間の物故会員、東日本大震災犠牲者への黙祷で始まった式典は、ご来賓そして全国南ライオンズクラブ友好会8クラブはじめ出席した全ブラザークラブを紹介、その後は大会実行委員長L.首藤節雄の歓迎の挨拶、大会会長L.森岩彰の式辞と続き、記念事業の発表となりました。記念事業についてはアクティビティ委員会で検討の結果盛岡市へ、新設されるアイスリンク前に“アウトドアクロック”を設置、もう一つは被災に遭って用具が流失した宮古市子ども会育成会連合会へ“テントを含むキャ

ンプ用品一式”を贈呈する事でした。当日はご来賓として谷藤裕明盛岡市長、刈屋裕之宮古市子ども会育成会連合会長がご出席下さり、アクティビティ委員長L.猿舘伸俊より事業の発表、完成予想図をスクリーンで紹介した後、会長L.森岩彰より両氏へ目録を贈呈しました。

その後クラブ内会員表彰の後、ライオンズクラブ国際協会332-B地区ガバナーL.吉田昭夫はじめ3名の方からご祝辞をいただき、ライオンズローア、閉会の言葉と続き、無事予定時間内に閉会ゴングを聞くことができました。

40周年記念式典成功に向け半年以上頑張っていたいただいた盛岡南ライオンズクラブ会員の皆さんと、ご参加いただいた全ての皆様に心から感謝御礼申し上げます。

翌日は全国南ライオンズクラブ友好会16名と当クラブ会員16名の計32名が参加し、エクスカージョンとして被災地宮古市田老地区の視察を行いました。

朝7時30分中央通発という、前日盛岡の夜を満喫されたサウス会の皆さんには少々ハードなスケジュールでしたが、それでも皆さん元気一杯で、宮古街道での私の拙い説明にも熱心に耳を傾けて下さいました。田老地区では津波で破壊された堤防のみえる所で(社)宮古観光文化交流協会のガイドさんから被災状況の説明をうけ、その後はバスで被災箇所を視察しました。特に当時のままの姿で残っている田老観光ホテルには皆さんかなりショックを受けていました。旧田老町役場では、テレビには出ていないここだけで見れるDVDを鑑賞、私たちも改めて津波の恐ろしさを認識しました。帰りには復興支援の一助として魚菜市場でたくさん買い物をしていただき皆さんを無事盛岡までお届けしてお別れしました。“百聞は一見に如かず” 帰りにサウス会の皆さんから“参加して良かった”と言われたことが何より嬉しく、そして皆さん感謝の気持ちで一杯になりました。



盛岡南LC結成40周年記念エクスカーショ

被災地を訪ねて(宮古市) L.石原 敏行



平成27年3月15日、前日結成40周年記念式典を終え、今日は式典に参加された「全国南友好会」の皆様と東日本大震災の被災地である、宮古市(田老地区周辺)を訪ねた。参加者は32名(当クラブ会員含む)早朝、都南総合支所を出発、一路宮古へ。

田老の町へ入ると、防潮堤へ。地元の専門ガイドの方が当時の状況を話してくれた。地震の後「3m」の津波が来るとの情報が入った。その後停電のため情報が途絶える。44ヶ所もの逃げ道があったそうだが防潮堤の高さは「5m」、危機感を感じていない人もいたようだ。近くにある旧田老観光ホテルは、3階から

下は鉄骨だけ。ここでは震災後時間が止まったまま。

その後、宮古市田老総合事務所(旧田老役場)にて、田老観光ホテル六階(屋上)から撮られたビデオを鑑賞。悲惨な映像が展開された、家や車は流され、瓦礫の山のみが残された。

破壊は一瞬であった、長い時間をかけて育んできたものがなすすべもなく破壊された。あれからすでに4年が過ぎた、宮古の春はもうすぐそこ、だが復興の春はまだまだ先に思えた。あちこちで重機が長い首を伸ばしている、今日はキリンもしばし休憩か。地元民が知っている景色は、津波にほとんど持ってい

かれた。あるのは更地と化した宅地跡。

「地震があったら逃げろ、もどってはいけない。」しかし、戻らないことに罪の意識を感じる人もいた。一人一人が葛藤と苦悩、覚悟と決断を強いられた事であろう。自分には気の利いた言葉を掛けてあげられる訳でもない。出来ることは微々たるもの、しかし微力でも決して無力ではない。きっと今後「何か」が出来るはず、その「何か」を探しにきた、完全に復興されるまでその「何か」を模索し続けたい。

西根LC CN45周年 西根LSC CN35周年記念式典を終えて

西根ライオンズクラブ会長 L.工藤 毎代

期日：2015年4月12日(日)

会場：八幡平市

いこいの村岩手

時節柄、質素に行おうと思っていた45周年記念行事でしたが、終了後振り返って見ますと、332-B地区吉田昭夫ガバナーを始めとするキャビネット役員、スポンサークラブの盛岡不来方LCの三役の方々、毎年交流会を行っている久慈LCの皆様方、そして1R2Zのブラザークラブの皆様、合わせて130名を超えるLの仲間達の御参加を戴き「質素にそして、ささやかに」どころか、盛大に開催出来ました事に深く感謝申し上げます。

45周年記念事業としては、長年陽の当たらない場所(?)に展示されて居りました彫刻家舟越保武作の「乙女の像移転費用と展示ケース作成」並びに我がクラブの区域内にある中学校3校にそれぞれ御希望の応援グッズを贈呈し、合計140数万円で実施しました。それに伴い田村正彦八幡平市長からは、感謝状を頂戴し心苦しい思いを致しました。

又、吉田昭夫ガバナーからは、身に余るお誉めのお言葉を戴き、スポンサークラブの盛岡不来方LCの吉田会長からも手厚い激励の御挨拶を戴いた事に厚く御礼申し上げます。

祝賀会に於いては、顔見知りのL仲間の方々が多く、終始和気あいあい和やかな内に終了することが出来ました。大先輩のLからは、「こんな楽しい周年記念式典は、我がクラブでは初めてだ」という感想を戴き、胸が熱くなる思いが致しました。又、スポンサークラブの三役の方々との会話中には、記念誌のデザインの素晴らしさ等、お褒めのお言葉を頂戴し、会員がそれぞれの役目を十分に果たして下さいました事に誌面を借りて御礼申し上げたいと思います。

このCN45周年を機に「We Serve」の精神の元、益々精進をして参りたいと思います。



アワード審査会レポート

キャビネット事務局長
L.佐々木 和夫(盛岡中津川LC)

期日：2015年4月10日(金)
会場：ホテルメトロポリタン盛岡
本館

2014～2015年度のアワード審査会が吉田地区ガバナー、筒井第一副地区ガバナー、金野第二副地区ガバナー、西本CAB幹事、伊藤CAB会計、ZCの方々10名、事務局員数名、オブザーバーとして次期CAB幹事予定者L.菅原、次期CAB会計予定者L.小原のご

出席で開催されました。

地区内各クラブから提出されたアワード申請書、及び毎月キャビネットに報告されるサバンナ(例会出席率・入退会の有無・労力奉仕時間・献血量・臓器登録等々)をキャビネット事務局で集計し資料としてキャビネット役員に提出されます。

キャビネット役員の方々は、アワード申請書と資料の照合、並びに各クラブが日頃活躍して

いる事を評価して、アワード審査委員会に案件として提出されます。西本CAB幹事から説明があり、ZCの方々からも活発なご意見を戴き評価が拮抗していて、審査委員の方々も非常に嬉しいご苦勞をされて選考しておりました。受賞される方々はおめでとうございます。惜しくも受賞されない方々は来期に好ご期待しましょう。審査委員の皆様ご苦勞様でした。



Servanna サバンナチェック

キャビネット事務局委員
L.佐藤 啓子(盛岡LC)

キャビネット事務局では、毎月、各ライオンズクラブの活動状況を細かい基準を設定して点数に表し内容にまちがいか無いかをチェックしています

各ライオンズクラブのアクティビティの取り組みを理解しクラブメンバーの創意工夫が手に取るようにわかります。

また、自分のクラブ活動の参考にもなり毎月のサバンナチェックの日が楽しみです。

332-B地区は広範囲に及び、活動にも地域に根ざした形があ

るように思います。

今年のガバナーの指針にあります、アスクワンを受け、家族会員の増強、賛助会員家の理解と協力、正会員のさらなる増加目指し、あと、2ヶ月ラストスパート中です。

アクティビティも金銭アクティビティだけでなく、労力、献血、使用済み切手も多数集められています。

今後も各クラブの発展のためクラブ員が努力することが332-B地区のさらなる発展につな



がります、その努力を皆様で認め合うためのサバンナチェックをこれからも行わせていただきます

YCE生受け入れレポート

アンちゃんとの 出会い

平泉ライオンズクラブ
L. 高橋 時男



私は、今回初めてホストファミリーを引き受けるにあたって期待と不安が交錯する面もあったのですが、アンちゃんとお会ってから、その不安が一度に消し飛んでしまいました。

食事(日本特有の食材や料理)や習慣に対しても、アンちゃんはチャレンジ精神旺盛で何にでもトライしました。ホームステイの期間中に茶道や着物の着付け等を体験しましたが、その習得の早さにびっくりすることが多くあり感心しました。着物のたたみ方も日本人でもなかなか覚えられないものなのに、アンちゃんは一度で覚えてしまったほどです。

8日間、アンちゃんと楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

アンナちゃんより

時間が過ぎるのは早いですね。

一週間がたった一日での出来事のように。

色々なことを教えて頂きありがとうございました。

私のために、平泉の皆さんがあたたかく迎えてくれ、その親切に感謝しています。

たくさんの人たちのお気遣いにも感謝しています。

平泉は、とってもきれいな町です。

素晴らしい建物や美味しい食べ物もあり、何より町の人たちの優しさに平泉が大好きになりました。

将来また機会があれば、ぜひ訪れたいと思ってました。

今回、交流できたすべての人たちを決して忘れないです。

日本語があまり上手ではなく、皆さんにはご苦労かけたと思います。

ごめんなさい。

タイに帰国してからも、日本語をもっと勉強します。

素敵な平泉での日々をありがとうございました。

P.S ぜひ、皆さんもタイに来てください。歓迎



YCE生受け入れレポート

初のYCE来日生
受け入れ盛岡南ライオンズクラブ
L. 石原 敏行

私 の家庭では4月6日から
の受け入れでした。6日
はガバナー表敬訪問。岩手大学
の方にタイ語の通訳をお願いし、
同時通訳をしてもらい、和気あ
いあいとした雰囲気の中で終
ることが出来ました。終了後、通
訳をお願いしたエムさんとの様
々な話の中で、YCE来日生のアン
ナさん（ニックネーム）は日本
の大学に留学したいとの希望を
持っており、岩手大学を見学し
たいとの希望で8日に予定しま
した。

バンコク育ちのアンナさんは
岩手の自然に興味があり、7日
には安比高原スキー場で初めて
見る雪と、初めてのスキーを体
験させることが出来、寒さには

弱いようでしたが雪の体験を喜
んでいました。

8日にはエムさんと友人の
ガッスさんの案内で岩手大学を
見学。2時間の予定が3時間を
超えてしまいました。アンナさ
んはますます岩手大学に興味を
持ち、是非留学したいと話して
いました。私も岩手大学に合格
して日本で青年期の土台を作り、
10年・20年後に大きく羽ばた
いてほしいと思いました。

9日には谷藤盛岡市長の表敬
訪問。「日本の文化を勉強したい。
将来は岩手大学で学びたい。」と
日本語で意気込みを披露。谷藤
市長からは盛岡の色々な所を見
て、「将来また来てください。」と
激励された。この日の模様は10

日の岩手日報に掲載されました。

滞在期間中は当クラブ主催の
わんこそば体験会やレオクラブ
主催で冷麺も体験できました。
またじゃじゃ麺は家族で食べに
出かけるなど、盛岡三大麺のす
べてを体験しました。食べ物に
好き嫌いはなく何でもよく食べ
てくれました。

あっという間の8日間。まだ
まだ見せたい場所はありまし
たが、本人ももっと体験したい
ことがあったと思います。

帰国の日の13日には、12月に
タイで開催されるOSEALフォー
ラムで再開する約束をして、成
田でしばしの別れをしました。





今も続く 「アイ(愛)キャビネット 副(福)幹事会」

L.佐藤 昌彦(盛岡不來方LC)



1. 発足の経緯、名前の由来

私ども9名(退会された盛岡不來方LC L.伊藤一彦を含む)が、キャビネット副幹事を務めましたのは、2010年7月から2011年6月の1年間でした。

任期が終わりに近づき始めた2011年3月11日14時46分、あのおぞましい東日本大震災が起きてしまいました。沿岸部には大津波が押し寄せ、2万人近い死者・行方不明者が出るなど大きな被害を受けました。盛岡地区が担当のキャビネットは相原ガバナーを中心にすぐに動き出し、ライオンズクラブ国際協会(LCIF)と掛け合い、被災地支援に乗り出しました。

盛岡地区の各LCは、岩手県沿岸の地区ごとに支援先を分担、それぞれ様々な支援を行ってまいりましたが、被災地が必要としている支援、効果的な支援、連携の可能性等の情報を求め、

キャビネット会議等で顔を合わせていた副幹事のメンバーが再び自然と集まることになりました。

メンバーには、ライオンズ活動に精通している者もおり、毎回ひじょうに有意義で賢くなって帰ることになりました。2011年から5年目となりますが、懇親会は毎年1~2回開催され、昨年秋で6回目を数えることになりました。

6回も続きますと会の名前を付けようかということになり、皆でいろいろ考えて参りましたが、まだ定まった名前はありません。当時のガバナーの名前をそのまま冠するのだけは芸がなく、やめようということに一致しております。

2. 各クラブ例会訪問

昨年秋の6回目の懇親会で、盛岡・滝沢地区の例会訪問を実

施しようということになり、参考にできる点は自分のクラブに持ち帰り推奨していこうということになりました。

第1回の例会訪問は、当時の相原ガバナーに敬意を表し、所属の盛岡不來方LCから始めようということになり、昨年11月26日の昼例会に7名で出席させていただきました。

第2回の例会訪問は、3月6日の盛岡LCの夜例会にやはり7名で出席させていただきました。その時の写真を掲載しましたのでご覧ください。規律正しい中にも厳かな例会で、夜例会の最後は、必ずいつも皆で手を繋ぎ輪になって「また会う日まで」で締めるということで、会員相互の親睦に大きな役割を果たしていると感じました。

第3回は4月16日、盛岡南LCの夜例会を訪問する予定ですので、どうぞよろしく願いいたします。

(参考)メンバー名:

盛岡LC L.吉田ひさ子 / 盛岡不來方LC L.白沢幸一、L.佐藤昌彦 / 盛岡中津川LC L.鈴木耕平
盛岡観武LC L.矢羽々睦子 / 盛岡南LC L.森岩 彰 / 滝沢LC L.篠木 清
玉山姫神LC L.中野昌明

ライオンズの誓いを 胸に

L.赤坂 勝(盛岡LC)

桜が咲き始め、お花見を楽しみにする傍ら、地区年次大会の準備で気忙しい今日この頃です。

さて、地区年次大会の前日5月16日(土)に330-A地区の東日本復興支援アクティビティが開催されます。

その打合会の席上で、盛岡LCの<すずらん給食>が話題になり、自分のクラブのことでしたので、少し驚きました。

ご存じのとおり盛岡LCは4月26日(日)に55周年記念式典を行います。実は、<すずらん給食>のアクティビティから50年になります。私が入会したときは、入会式で会長から<すずらん給食>の説明を聴き、過去の記念誌を読んだものでした。

ところで、前野和久著「すずらん給食—私のジャーナリズム作法—」をご存じでしょうか。筆者の前野さんこそ、当時毎日新聞の盛岡支局勤務で記事を書いた人物です。ジャーナリストの視点で書かれているので、興味深い内容になっています。

巻頭の一部を抜粋すると～先生、おらあえ(家)食いものなくてみんな死ぬ」と訴える子など…。これを知った盛岡LC(今

野梓会長ら71人)が東京、日本橋両LCと協力して、給食資金を贈ろうと話し、昭和40年6月7日給食資金の一部が贈られた。(註:盛岡LCは資金の他に設備備品も贈っています。)子供たちはお礼にと、地元の香り高いすずらんを摘んでLCに送ることにした。学校ではこの資金による給食を<すずらん給食>と呼び、完全給食を実施したいと言っている～と書いてあります。また、～昭和40年6月の朝刊に「岩手のへき地にすずらん給食」「弁当もなく冷害の子」「腹がへって病気に」「ライオンズクラブが救いの手」という六段抜きの見出しでこんな記事が掲載された。この記事がきっかけになって全国のへき地に完全給食をという運動が起きた～とあり、当時の佐藤首相が予備費から5億円を緊急に支出して完全給食を全国のへき地に実施するよう閣議で指示することに結びついたと書いてあります。

しかし、この本を読むとすべてがスムーズに進んだわけではなく、「中央と地方」「学校と行政」など立場が異なれば受け止め方から対応も異なり、葛藤が

あったことがわかるのです。

50年が経ち、社会が複雑化を増して、支援する内容も「物」から「物心両面」に変わりました。しかし、この間ライオンズの精神は不変なのだと感じています。

今回の330-A地区のアクティビティは、被災地の障がいのある方及びその保護者を対象としたアクティビティで、被災地の社会福祉協議会・現地LCと調整を取りながら行う計画です。それに充てる資金確保のために「郷ひろみコンサート 於:池袋東京芸術劇場」を実施すると共に、その劇場前の公園で「被災地物産展」を開催しました。

5月16日は、このアクティビティのために、330-A地区塩月ガバナーを筆頭に多くの会員が滝沢市にある産業文化センターアピオに集結する予定です。

昨今は、人口減少問題が大きくクローズアップされ、多くの書籍が出ています。やはり立場が異なれば受け止め方やその対策も異なるのは、仕方がないことだと思います。大事なことは、地域住民の立場になり実態を把握した上で活動することではないのでしょうか。すずらん給食も何度も足を運び実態を知りました。

東日本大震災以降、全国の会員が何度も足を運び実態を知り情報を共有して、その結果大きな力となってアクティビティに繋がっていると思います。

結びに、入会式に読んだ「ライオンズの誓い」を改めて噛みしめたいと思います。～われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する。～



人と人、命を結び、 鮭の赤ちゃんを育てて ふるさとの川に放流

L.喜多 正敏 (滝沢LC)



わー！プヨプヨしている。卵の中に眼が見える！

子供達は鮭の眼が出来た発眼卵に初めて見て触って歓声を挙げました。

最初は卵、次に卵の栄養分をお腹にして泳ぎ、これが吸収され無くなり稚魚らしくなります。

廊下の水槽を子供達がそっと覗きこんでいきます。

滝沢ライオンズクラブは、子供達に命の愛おしさとしなやかさ、自然への関心を育もうと企画し、滝沢市立鶴飼小学校に水槽や餌など一式を寄贈、岩手県水産振興課の協力を頂き、子供達が沿岸の漁協等から頂いた発眼卵を水槽で稚魚になるまで観察し、地元の鮭が遡上する諸葛川に放流しました。

水質の管理や給餌、放流のお世話は地元の諸葛川愛護の会が

行うなど当クラブ、小学校、愛護の会、地元子供会、県一体の取り組みです。

当初、L.喜多が既に盛岡市立仁王小学校や杜陵小学校の生徒が観察放流事業を推進していた松本静毅氏からご指導を頂き、当時の滝沢ライオンズクラブの阿部正喜会長が迅速に行動し東日本大震災で大きな被害を被った山田町の各避難場所に滝沢特産の長芋等を届けたご縁で平成26年1月30日に三陸やまだ漁業協同組合から発眼卵を頂いたことに始まり、今年も沿岸から発眼卵を頂き観察をしていた中、当クラブに雫石川東部漁業協同組合から組合が育てた稚魚1万尾の放流のお話しを頂き、2月15日に、愛護の会、学校、子供会と協力し当クラブの進行によ

り漁協職員から養殖や鮭が諸葛川から下り太平洋に出て約4年後、石巻から200km以上を産卵するため遡上するなど説明を受け放流しました。

鶴飼小で飼育した鮭の稚魚も3月20日に放流し、地元の新聞やテレビで報道、放映されPRとなりました。

子供達は、これからの大変な旅たちとなる鮭に元気で帰ってきてねと声をかけ川面にそっと放し見送っていました。牛抱校長先生は大変良い企画だ。これからも続けたいと話され、県は鮭の絵入りの諸葛川の愛護の会の活動を紹介する看板も建て、活動に関心を高めて頂きました。

当クラブが仲介して沖縄の糸満市のカサブランカを愛する市民の会から東日本大震災で被災した宮古市・山田町の小学校の新入生に、手づくりのお守りが贈られ、小学生からは御礼の手紙が送られ、今年もストラップが贈られ交流が続いています。

アクティビティによりクラブ以外にも奉仕の輪と心が広がっていくことに意義があり、細やかでも積極的、柔軟、機敏な取り組みが大事と感じました。



釜石リアスLC 「ライオンズクラブに入会して」

L.山崎 智千

この度、釜石リアスライオンズクラブに入会させていただき誠に感謝申し上げます。私が入会致したのは2014年3月です。東日本大震災により社屋や家屋等が被災してから3年が過ぎた頃で、自社の再建と郷土の再建という重い課題が押し掛かっておりました。被災地各地においてライオンズクラブからのご支援は大変有り難く感じておりましたところ、「奉仕活動に参加し、地域社会に貢献する想いがあるならば、会員となって一緒に活動したらどうか」とのお誘いがあり、入会することと致しました。

東日本大震災では「自助・共助・公助」のそれぞれの効用と限界とを多くの方達が目の当たりにし、その後の復旧・復興を困難にしております。

地域コミュニティの中でも、私どもの企業が単体で共助を担



う機能はありません。しかし共助を担うライオンズクラブへの参加は社会的責任を担い、共助の一員としての機能を得ることが出来ると思います。その一端として釜石復興支援コンサート、クリスマス献血キャンペーン、アイバンクひかりの箱募金活動等、安定した共助の活動は

皆の意識を安定化させ被災地の復興に資すると考えております。

震災から4年が過ぎましたが、被災地の復興はまだまだです。会員諸先輩方の御指導を得ながら企業の社会的責任を果たし、可能な限り地域への奉仕活動に取り組んでいきたいと思っております。



第14回 江刺岩手ライオンズクラブ旗 中学生バレーボール大会開催

江刺岩手ライオンズクラブ幹事 L. 高橋 晋



本大会も14回目を迎え、今年度も3月7日(土)～8日(日)の2日間にわたり、江刺中央体育館、江刺西体育館を会場に熱戦が繰り上げられました。

この大会はライオンズクラブの活動の主目的であります、青少年健全育成事業の一環として毎年開催しており、参加チームも男子チーム、女子チーム合わせて24チームと多く、奥州市内はもとより、盛岡市、花巻市、北上市、大船渡市、そして岩手選抜ジュニアや、胆江地区の小学生合同チームからの参加と、この大会のもつ意義の大きさと喜びを感じております。

開会式では、会長から選手の皆さんは日頃の練習の成果を一人一人悔いなく発揮されること

を願っている。また、選手の皆さんが気持ちよく練習や試合ができるように頑張ってくださいている指導者や審判、保護者の人たちへの感謝の気持ちを忘れないようにとの挨拶があり、奥州市立江刺第一中学校のキャプテンから、選手を代表して力強い宣誓の後競技に入りました。

白熱した試合が多く、会場の借用時間ギリギリまでかかり、大変盛り上がった大会でした。結果は、男女とも金ヶ崎町立金ヶ崎中学校の優勝で、男子の第2位は、奥州市立江刺第一中学校。女子の第2位は、岩手選抜ジュニアでした。

2日間にわたる競技も無事終了し、閉会式では会長から優勝チームに優勝旗、2位、3位にカップを授与し、大会の一切を終了しました。

スポーツを通じて心身を鍛え、成長していく未来を担う子供たちを我々、江刺岩手ライオンズクラブはこれからもずっと見守り、応援していくことを改めて決意しました。

開催にあたりご尽力頂きました奥州市バレーボール協会の皆様に厚くお礼申し上げます。



ふるさと ～海のある町～



四年の重み だが雛は巣立ち羽ばたく

志賀 かう子

東北の春は厳しい寒さの中から静かに静かに近づいて、ゆるやかに命を育んでいく。そうした穏やかさやつつましが私は好き。なのに今年は何としか。都会風にろくに挨拶もせずそそくさとやってきて、またたくまに花を咲かせてしまった。いささか不満である。

4年前、あの惨事があった春はどうであったろうかと、うす曇りの空と桜を見ながら思いにひたった。今なお仮設住宅で日々過ごすおひと、病院のベッドで孤独に対座するおひと、新しい命をむかえてひとすじの希望を得たおひと、無我夢中で未来へ足音を響かせているおひと等々、第三者の私などの想像が及ばぬ日々も思われてくるのだった。

去る3月11日、政府主催による三陸大震災時の物故者追悼式の模様をテレビで私は見た。

福島、宮城、岩手三県の若人が追悼の辞を読みあげる。その中の一つ石巻市代表の菅原彩加さん（19歳）はその日直面した苛酷な自らの運命を語った。「15歳だった私には受け入れられないような悲しみがたくさんありました」と語り始める。突然の揺れ。濁流にのまれ、気づいた時はがれきの上。足元から助けを求める母の声をきく。見れば母の体には釘や木が刺さりあまりの変貌。必死で母を助けようとする。一人の力ではいかんともならず、己れ一人生きのびる道を選ぶのである。なんといたましい選択だろう。どれほどの悲しみと苦しみを過ごしたことか。

彩加さんは凜々しく立ち上がり、今大学で防災学を学んでいる。亡き母は、その娘をどれほど誇りとしていることか。雛鳥はみごとに巣立ち、羽ばたいたのであった。



3月のアクティビティ

1R1Z	
盛岡LC	—
盛岡不来方LC	5日 みちのく子ども療育センター「不来方ライオンズ文庫」へ図書寄贈
	8日 大槌町みどり幼稚園訪問
盛岡中津川LC	3日 東日本大震災復興支援 陸前高田市竹駒保育園支援事業
盛岡観武LC	3日 ひかりの箱募金
盛岡南LC	6日 ひかりの箱募金
	14日 アイスリンクにアウトドアクロックを寄贈
	14日 宮古市子ども会育成会連合会へキャンプ用品寄贈
	23日 視覚障害者のための手で見る博物館への寄贈
滝沢LC	12日 ひかりの箱募金
玉山姫神LC	31日 市内小中学校へ図書カード寄贈
1R2Z	
岩手LC	3日 岩手県立沼宮内高等学校教育振興会へ協賛金贈呈
	27日 献血推進活動
二戸LC	12日 ひかりの箱募金
西根LC	—
安代LC	6日 ひかりの箱募金
	23日 献血推進活動
2R1Z	
花巻LC	13日 ひかりの箱募金
	16日 ひかりの箱募金
紫波LC	18日 献血推進活動
	31日 使用済み切手 15022枚送付
	3日 花北青雲高等学校卒業式
石鳥谷LC	14日 花巻市立石鳥谷中学校卒業式
	20日 ライオンズの庭植栽
大迫早池峰LC	1日 梅園の剪定作業
花巻東LC	—
東和猿ヶ石LC	14日 釜石仮設住宅住民に抹茶振る舞い
矢巾LC	4日 矢巾駅に「貸与用雨傘」を補充
	21日 すくすくネットワーク巡回指導
2R2Z	
北上LC	2月2~28日 資源回収リサイクル 事業資金獲得
	9、30日 献血推進活動
	13日 ひかりの箱募金
	アイバンク登録
和賀LC	20日 東日本大震災復興支援 「雪と遊ぼうin夏油」
	27日 東日本大震災復興支援 山田町大沢小学校へ一輪車練習用すりすり取り付け支援
	11日 LCIF\$1000献金
	11日 ひかりの箱募金
北上国見LC	12、16、26日 資源回収
	9、13、20、30日 献血推進活動 5箇所
	20日 東日本大震災復興支援 「雪と遊ぼうin夏油」
	27日 東日本大震災復興支援 山田町大沢小学校へ一輪車練習用すりすり取り付け支援
	27日 使用済み切手 4500枚送付
江釣子LC	20日 献血推進活動
	20日 東日本大震災復興支援 「雪と遊ぼうin夏油」
	27日 東日本大震災復興支援 山田町大沢小学校へ一輪車練習用すりすり取り付け支援
江刺岩手LC	3、6日 資源回収
	8日 献血推進活動
	20日 東日本大震災復興支援 「雪と遊ぼうin夏油」
	27日 アイバンク登録
前沢LC	30日 東日本大震災復興支援 山田町大沢小学校へ一輪車練習用すりすり取り付け支援
	5日 ひかりの箱募金
	7日 献血推進活動
水沢LC	21日 「桜づつみ」植樹祭
	1日 岩谷堂高等学校卒業式
	7、8日 江刺岩手LC旗中学生バレーボール大会
水沢中央LC	26日 65型カンタンサイネージ (掲示板) 贈呈式
	15日 献血推進活動
	20日 使用済み切手 1900枚送付
金ケ崎LC	3日 勤労学生表彰
	16日 ひかりの箱募金
	20日 水沢フラワーロード運営委員会理事会出席
	20日 使用済み切手 18412枚送付
金ケ崎LC	8日 献血推進活動
	13日 ひかりの箱募金
	12~20日 小学6年、小中通産9年無欠席表彰
19日 大槌児童クラブ	

胆沢岩手LC	11~18日	奥州市胆沢区内の小中学校優良児童生徒表彰
3R2Z		
一関LC	—	
平泉LC	2日	ひかりの箱募金
花泉LC	3日	新入学児童にランドセルカバー贈呈
	17日	涌津スポ少全国大会出場へ支援金
一関中央LC	3日	使用済み切手 1000枚送付
	7日	献血推進活動
	13日	ひかりの箱募金
一関厳美浜LC	29日	月一労力奉仕
22日	献血推進活動	
4R1Z		
千厩LC	5日	LCIF\$1000献金
	12日	ひかりの箱募金
	20日	一関市立千厩小学校卒業式
	23日	献血推進活動
大東岩手LC	3日	新入学児童へランドセルカバー贈呈
	13日	ひかりの箱募金
	2月11、12日	東日本大震災復興支援 小白浜小学校他寄席
16日	猿沢小学校で落語会実施	
東山LC	—	
藤沢岩手LC	3日	藤沢子ども園もちつき会開催
	13日	ひかりの箱募金
川崎岩手LC	20日	川崎保育園 保育証書授与式
室根LC	8日	蟻塚公園桜の手入れ
4R2Z		
大船渡LC	—	
陸前高田LC	—	
住田LC	3日	音声通訳ボランティア団体に活動資金
大船渡五葉LC	10日	視覚障害者向け支援 (音声訳)
	30日	使用済み切手 2563枚送付
5R1Z		
宮古岩手LC	8日	献血推進活動
	25日	東日本大震災被災地支援 車両贈呈式
久慈LC	2日	献血推進活動
	11日	東日本大震災復興祈念式出席
陸中宮古LC	22日	桜の木のテングス病駆除作業
	1日	陸中宮古LC旗争奪剣道大会開催
	4、10日	レディースの会奉仕活動
	8日	献血推進活動
	20日	第4回百獣の王ライオンコンペ (事業資金獲得)
	25日	東日本大震災被災地支援 車両贈呈式
田野畑LC	25日	スポーツ文化振興基金表彰式
	27、30、31日	千羽鶴作成
岩泉龍泉洞LC	2日	児童生徒集団登校に係る交通安全運動
18日	交通安全に係る夕方ライト早め点灯運動に参加	
5R2Z		
釜石LC	1日	釜石商工高等学校卒業式
	18日	第405回LL奉仕活動
	11日	釜石市東日本大震災犠牲者追悼式
	11日	鎮魂の碑 清掃
遠野LC	4日	リサイクル品の回収
	13日	使用済み切手 3000枚送付
釜石リアスLC	13日	ひかりの箱募金
	8日	東日本大震災復興支援チャリティコンサート
	11日	東日本大震災犠牲者追悼式
	4日	ひかりの箱募金
大槌LC	23日	使用済み切手 1000枚送付
	26日	LCIF\$1000献金
	11日	城山公園「希望の光」周辺清掃
陸中山田LC	—	
22日	旧役場前献花台周辺の清掃	
ライオネスクラブ		
西根LS	23日	岩手山焼き走りマラソン全国大会実行委員会
レオクラブ		
盛岡LEO	28日	テーブルマナー講習
早池峰LEO	—	
石鳥谷LEO	—	
北上LEO	—	
一関二高LEO	—	
釜石LEO	—	

浪漫に馳せて！

地区ガバナー L. 吉田 昭夫
(盛岡中津川LC)

過日、東ブロック有志によるトロントガバナー会が関東地区（333担当）で開催されました。330、331、332、333のDGが家族全員共々14名任意合流し、この他に337-B地区DGの参加もいただき、DG余命あと2ヶ月、幾ばくもありませんが昼夜を通じての絆もよろしく友情、団結を強めました。

話題の中心は第一に、年次大会の在り方について（既に330、333は4月中に終了）、何ととってもトロント国際大会での国際会長L.ジョー・プレストンのパワー溢れるワンマンショーアクションが圧巻でした。（私は拍手を送りました）次期国際会長L.山田實紘がハワイで同じようなショーを催すとすれば日本ライオンズの大変革につながるのでは…そのようなことはしないと思います…。

332-F地区DG L.稲岡敬弘は新進気鋭、従来にこだわらない大会運営をすとか、興

味津々…期待するところ大です。

第二に、会員増強について、夫々の地区がどうなっているのか、苦戦しているようです。332MDでは332-D地区が圧倒的に先行しており鼻高々、あと2ヶ月、追越すぞ！とはいいませんでしたが…Ask・1の難しさには異口同音でした。その他にもいろいろとありましたが、日本ライオンズクラブは1952年結成され、飛躍的な発展の時代は終わり、ゆるやかな成熟の時にあると書かれてありましたが、ライオニズムは永久不変。しかし従来の価値観や固定観念だけでは熟成に至らない事も忘れてはなりません。ほどほどに酔いが回ってきた時、337-B地区DG L.小田満美は“ライオンズは楽しくやりましようや！”と発言、まったくその通りです。

あなたのクラブ、あなたのやり方で！しっかり理解しましょう。

会員動向	
3月 新入会員一覧	
クラブ名	会員名 (新入/再入/転入)
盛岡中津川LC	高橋 かな子
盛岡観武LC	佐藤 慎倫
	鈴木 朋子
盛岡南LC	稲荷場 裕
	大橋 玲子
	川村 幸子
玉山姫神LC	菊池 明佳
	菊地 慶
岩手LC	幅 陽三
	松山 征子
石鳥谷LC	高橋 一栄
和賀LC	泉澤 大樹
	泉澤 菫恵
	伊藤 浩子
	後藤 るみ子
	佐藤 満義
	柴田 育也
	高田 祥子
	高橋 千鶴子
	高橋 菜々

和賀LC	田村 小百合
	田村 勇太
	田村 よう子
	照井 照子
	中野 麻美
	中野 尊哉
江釣子LC	中野 千恵子
	藤原 勝男
水沢LC	千葉 勝聡
	千葉 由紀
金ヶ崎LC	石田 一浩
	伊藤 光重
	小野寺 泉
	小野寺 謙一
	小野寺 利継子
	木村 澄子
	桐山 昭夫
	高橋 宏子
	高橋 真智子
	高橋 稔
一関LC	須崎 勇介
大船渡LC	鎌田 久也
	鎌田 久美

大船渡LC	田村 恵功
	田村 孝子
久慈LC	外里 栄子
	外里 キク
	外里 朋子
	古山 文
	古山 栄子
	古山 直樹
陸中宮古LC	古山 浩樹
	菊地 けい子
	羽山 みな子
釜石LC	三河 敏光
	牛崎 智功
	奥山 キエ子
	野村 謙
	野村 恕寛
	細田 俊介

3月 MJF\$1000献金者		
クラブ名	会員氏名	MJF回数
和賀LC	小原 謙	7
千厩LC	菊地 實	1
釜石リアスLC	佐々木 丘	1

アクティビティ フォトグラフ

盛岡中津川LC



東日本大震災復興支援
陸前高田市竹駒保育園支援事業

2R2Z合同



東日本大震災復興支援
「雪と遊ぼう in 夏油」

江刺岩手LC



65型カンタンサインージ（掲示板）贈呈式

水沢中央LC



勤労学生表彰

花泉LC



新入学児童にランドセルカバー贈呈

大東岩手LC



猿沢小学校で落語会実施

室根LC



蟻塚公園桜の手入れ

陸中宮古LC



スポーツ文化振興基金表彰式

釜石リアスLC



東日本大震災復興支援チャリティコンサート

編集後記

花見シーズン到来

盛岡には石割桜（国の天然記念物）、盛岡城址等々の桜の名所があります。

「ライオンいわて」が配本になる頃には、米内浄水場の桜が見頃です。この時期には特別に敷地内が開放されます。場内には30本のヤエベニシダレヒガンサクラがあり岩手県指定の保存樹木として保護されています。

樹齢約90年を誇るヤエベニシダレザクラが咲き誇る景色は圧巻であり、是非感動を得てください。

編集委員 L. 高橋 次郎

表紙写真：今号の表紙は「笑顔満開」村上和希さん（=宮古商業高等学校写真部3学年）の作品です。
高校生達の写真はどれもきらきらしていました。
その中で写真とタイトルがいっしょに目に飛び込んできたのが「笑顔満開」。
シャッターを押す村上さんもきっと笑顔だったのでしょう。
笑顔は伝染するものですから。

ライオンズクラブ国際協会332-B地区 キャビネット事務局

ライオンいわて編集委員会

発行 2015年4月25日

発行人：L. 吉田昭夫（盛岡中津川LC）
編集長：L. 松本征子（盛岡中津川LC）
副編集長：L. 米澤俊夫（盛岡中津川LC）
編集委員：L. 高橋次郎（盛岡LC）、L. 前田秀男（盛岡不来方LC）、
L. 鈴木耕平（盛岡中津川LC）、L. 佐藤博藏（盛岡観武LC）、
L. 小野寺平信（盛岡南LC）、L. 千田幸一（滝沢LC）、
L. 中野昌明（玉山姫神LC）

印刷：川口印刷工業株式会社

事務局：〒020-0022 盛岡市大通3-6-12開運橋センタービル4-7号
TEL 019-621-1415 FAX 019-621-1420

E-mail : office-332bmorioka@almond.ocn.ne.jp